週報
こひつじ
第40巻　3号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師　米村　英二

私の友人で倉敷教会に通われている萩原直幸さんという方がいます。岡山大学のフランス語の先生です。その方が、ご自分の教会の月刊誌『まきば』に「私の好きな賛美歌」という題で、以下のような記事を載せておられました。信仰の初期、大津クリスチャンシンガーズの歌が印象に残ったとありましたので、皆さんに紹介したいと思います。

私の好きな賛美歌

萩原直幸

私がキリスト教に導かれたのは妻との出会いによってです。

付き合い始めてから、彼女の敬愛する大津キリスト教会の米村英二牧師の説教テープを大量に渡されました。

阿蘇の外輪山を望む片田舎にアメリカ人宣教師が開拓した小さな教会を任された米村牧師は、地元の高校生たちに英語を教えて生計を立てていたようですが、その高校生たちが教会につながるようになり、彼らは「大津クリスチャンシンガーズ」として礼拝の中で賛美をするようになります。

当時（一九七〇年代）は、フォークソングが流行った時代で、それこそフォークギターを弾きながらゴスペルソングを歌っていました。

説教テープの中には「主は道を造られる」や「シャイン、ジーザス、シャイン」などの曲が流れていました。

特に私の注意を惹いたのは聖歌五八九番の「恵みの高き嶺」でした。

とりわけ二番の歌詞が私の心をとらえました。

恐れのある地に
などかは留まらん
疑惑の雲をば
早く下に踏まん

光と聖きと
平和に満ちたる
恵みの高き嶺
われに踏ましめよ

当時の私にとってキリスト教は疑問だらけで、処女懐胎？　奇蹟？　復活？　永遠の命？　最後の審判？　とモヤモヤしていたので（今でも疑問が解消したわけではないのですが・・・）、それをなんとか吹っ切りたいという思いがあったことが背景にありました。

さて、その後の経緯により受洗に導かれた私は、讃美歌一編五二九番「ああうれし、わが身も主のものになりけり」を実感するようになりました。まさに原詩にあるように、

This is my story,
this is my song.

であり、「すくわれし身のさち」を味わっています。

以前はキリスト教でいうところの「救い」「救済」「救われる」ということの意味がよく分からなかったのですが、今ではイエスがいつもそばにいてくださるということが救いなのだと感じています。

歌や音楽には、時に人を勇気づけ、時に人を救う力があります。音楽やコーラスから教会に導かれる人も少なくありません。これからも、聖歌隊や会衆賛美などで主をほめたたえてゆきたいと思います。（終）

＊＊＊

○教会学校は午前一〇時から。
○説教は米村牧師。

＊＊＊